

2022 年度日本地理教育学会出版文化賞選考結果報告 (2022.8.20.)

出版文化賞選考委員会

『地理教育フィールドワーク 実践論』(学文社), 2022 年 3 月 30 日出版。
編著者: 池 俊介, その他の著者: 大館茉由・斎藤亮次・田中岳人・橋本真人・平林千紘・山崎祥雄・山本隆太・吉田裕幸

受賞理由

地理教育においては、フィールドワークが重視され続ける一方、現場ではそれが必ずしも実践されない状況が指摘されてきた。本書は、この問題に問題解決志向で向き合い、現場教員が地理教育フィールドワークの理論と実践を基礎から学べる手引書として刊行されたものである。

本書のすぐれた点は以下 3 点にまとめられる。

- ①海外の知見もふまえ、生徒のコンピテンシーや学習プロセスからフィールドワークを類型化し、フィールドワークがいかに関地理学習を深めるのかを示したこと。
- ②授業を考える教師の目線に立ち、カリキュラムへの位置づけや技能を含むフィールドワーク実施手順等の授業準備、さらには当日の留意点までを示したこと。
- ③地理の授業時間に限定しない、様々な学習場面でのフィールドワークの複数の実践授業について、3つの類型ごとに具体的な活動内容やルーブリック評価を丁寧に示したこと。

以上、本書は地理教育におけるフィールドワークの理論と実践がみごとに結び付けられ、地理教育フィールドワークの普及・発展に大いに貢献するものとして評価できる。また、本書はフィールドワークの実践を困難にする現場の課題の解消を第一に考えたものであり、地理が専門であるか否かにかかわらず、現場の教員が協働してフィールドワークの実現に向けて具体的に歩み出すことを可能にし、フィールドワークによる地理学習の活性化に向かう道筋も示された良書である。